

2年生英語 R 資料 Leonardo da Vinci (1452~1519) と Mona Lisa の謎

生家へ向かう道

Leonardo の生家

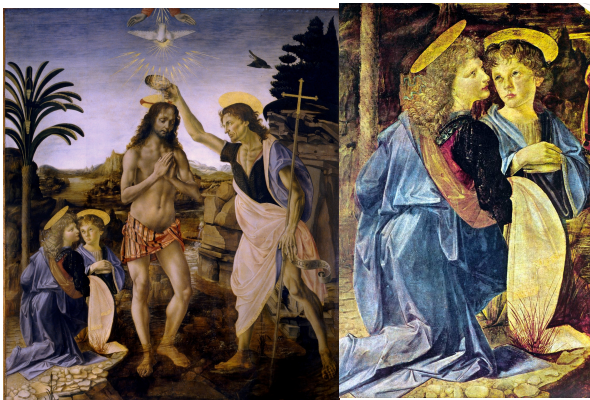
筆者（中川信雄）はイタリアの Firenze 留学中に多くの有名な芸術家達の作品を見た。Leonardo もその1人で、da Vinci とは「ヴィンチ村出身の」という意味である。da は前置詞 from である。彼の生家は Firenze の近郊にあるので日帰りで訪問できた。

2009年1月17日、Vinci 村に行くと、標識には「Vinci 市」と書いてあった。Leonardo

博物館で彼の発明品（下の写真のバネ動力自動車等）を見た後、生家に向かった。オリーブの林を抜けて、Leonardo の生家に着くまで誰にも会わなかった。生家には、受付に女性が1人いた。こんな自然豊かな所から天才は生まれたのだなあ、と思った。彼はどこに行くにもスケッチブックを持って歩き、スケッチやメモを記していたそうだ。動植物や回りの空気が彼の観察の対象だった。「空気遠近法」の基礎もここで身に付けたのだと思う。

あるとき父に頼まれ、盾に絵を描いた。描いた蛇やトカゲが生きているかのように見えた。それを見て父は絶句する。14歳の時、Leonardo は父に連れられ Finreze の Verocchio 工房の門を叩く。ヴェロッキオの「キリストの洗礼」の左側に Leonardo が描いた天使の絵に驚愕し、師ヴェロッキオが筆を折ったのはわずか3年後。Leonardo は「ボカシ画法」と「空気遠近法」という技法を使った。

Sfumato スフマート「ボカシ画法」を可能にしたのはテンペラで画ではなく Leonardo が好んだ油絵の具



右側のヴェロッキオが描いた天使はテンペラ画だが、左の天使は Leonardo が油絵の具を使って描いたものだ。テンペラは卵の黄身と顔料を使うのですぐ乾いてしまう。油絵の具は、油と顔料を混ぜるのですぐに乾かず、上塗りができるので絵に奥行きを与えることができる。Leonardo は何度も絵の具を重ねて描いたので、油絵の具を好んだ。

輪郭線について Leonardo は言う。「物の輪郭はその一部分ではなく、それと接する他の物の始まり

りである」油絵の具の特性を生かした Mona Lisa は全ての物が溶け合うように描かれている。

イタリア語で fumare は「煙を出す」、s-は反対の意味を表す接頭辞、sfumare は「煙が消える、ぼやける」という意味で sfumato はその過去分詞形「ぼやけた」である。

空気遠近法 「君に空気が彫れるか？私は描ける」と画家 Leonardo は彫刻家 Michelangelo に言った。

2008年5月9日 大学の校外学習で Uffizi 美術館に行き、Leonardo の「受胎告知 Annunciazione」をじっくりと見た。2007年に1億 Euro (155億円)で東京に展示された時はとても話題になったが、イタリアでは反対運動がおこったそうである。その「受胎告知」を、周囲に人がほとんどいない状態で顔を突きつけて鑑賞した。左の天使の羽根や足下の花は写実的である。背景にある山（イエスの象徴）は青くかすんでいるが、これが「空気遠近法」という Leonardo の技法である。「物体は遠い

所にあるほどその輪郭がぼやけ、あいだに空気が介在するために青みがかって見える」と彼は言う。



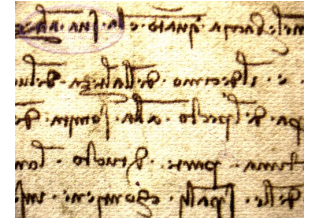
Leonardo の「受胎告知」



背景の山、空気は青い

鏡文字 (Mirror Writing) で書かれた手稿 (Codex)

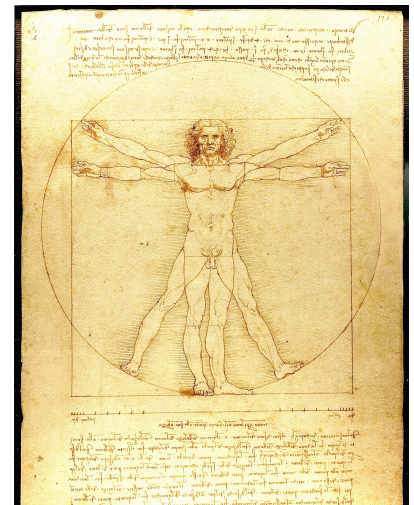
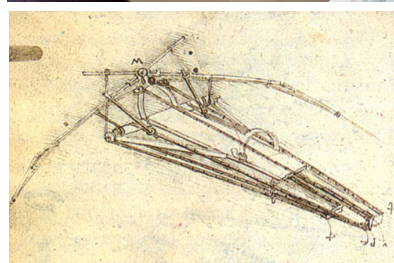
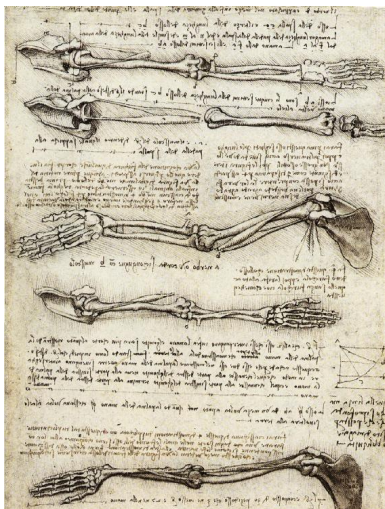
Leonardo は幼年時代、学校に通わず自然を相手に遊んでいた。どこへ行くのにもノートを手放さずメモやスケッチをした。彼が遺した手稿は1万3000頁になるが、彼は若い頃から左手で裏返しの「鏡文字」を書いた。



万能の天才 Leonardo

2008年9月24日、筆者はMilanoにあるLeonardo da Vinci国立科学技術博物館を訪れた。彼は絵だけでなく、様々な発明の設計図を残し、Milanoでは室内装飾や運河の設計をした。この博物館では彼の発明品を実際に作って展示してある。彼は解剖も行い、作曲もできてリュートを演奏した。余生は、フランス王フランソワ1世に招かれ、1519年5月2日に亡くなるまでフランスのアンボワーズ城に隣接するクルーの館で暮らした。イタリアでは脚光を浴びず不運だった彼は、墓までフランス革命で破壊された。彼は一生独身でMona Lisaの絵を晩年まで手放さなかった。

「**ウィトルウィウスの人体図**」(Vitruvian Man) は1487年ごろにLeonardoが描いた世界的に有名な人体図で、イタリアの1Euro硬貨の裏にも描かれている。両手を広げた長さは身長に等しく、身長が14分の1だけ低くなるように両足を広げ、手の中指が頭のとっぺんにくるよう両腕を上げ、足の先端と結ぶと円ができ、その中心に臍(へそ)がくる、ということを示している。



彼は病院の遺体安置所で解剖をした。

(上) バネで動く自動車 (下) 飛行機

ウィトルウィウスの人体図